

第18回 ヨシ

カコちゃん
ショウくん かほくがたチルドレン
by ヒロ



水草の危機が懸念される河北潟。とくに、アサザなどの浮葉植物やマツモなどの沈水植物の衰退は顕著です。しかし意外なことに、河北潟は全国的にもたいへん植物が多い湖なのです。

湖の面積に占める湖岸の植物の面積は、全国の湖の平均値では1.4%。それに対して、河北潟の植物の面積は13.3% (永坂, 1997) です。ちなみに、琵琶湖の湖岸の植物帯は327.6ha、0.4% (滋賀県, 1992、内湖を含む) しかありません。これは、琵琶湖がとても大きく、深い湖だからです。一方、河北潟は水深4 m以下の浅い湖で、本来は湖岸の沖の方まで植物が生育できる形状をしています。そのためもともと豊かな植生となりやすい湖なのです。しかし現在の河北潟は、湖岸の沈水植物や浮葉植物はほとんど消滅しています。実際には、現在の河北潟の豊かな植生を担っているのは、水辺の抽水植物です。そしてその代表はヨシという植物です。したがって、河北潟はたいへんヨシの多い湖といえます。

河北潟ではヨシはまだまだ豊富ですが、例えば琵琶湖では、ヨシの消滅が進んでしまい、昭和28年頃には260haのヨシ原があったものの、平成4年には128haとなってしまったそうです (滋賀県ホームページ・マザーレイク滋賀応援サイトより)。そこで、現在では、滋賀県ではヨシ群落保全条例をつくって、ヨシ原の保全対策を講じています。この条例の前文には、「水辺に広がるヨシ群落は、湖国らしい個性豊かな郷土の原風景であり、水鳥や魚の大切な生息場所である。また、湖岸の浸食を防止し、湖辺の水質保全にも役立つなど優れた自然の働きを有している」と述べられています。河北潟においても、ヨシ群落は水辺の多くの生命を守っている重要な環境ですが、最近の河北潟湖沼研究所の調査では、いくつかの地点でヨシ原の衰退が確認されています。保全のための抜本的な対策が望まれます。

日本は、かつて豊葦原瑞穂国 (とよあしはらみずほのくに) と呼ばれていました。河北潟地域を含め、だんだんと瑞穂はあれど葦原はない国になってきています。

ところで、良くアシとヨシは別の植物ですかと聞かれることがあります。実は同じ植物です。ヨシには葦、芦、蘆、葭葦といった漢字が充てられます。ヨシを「ヨシ」と読むのは「アシ」が「悪し」に通じることから「良し」と言い替えたとも言われています。「関東では「アシ」、関西では「ヨシ」が一般的」ということです (Wikipediaより)。(文: 高橋 久)